

報道関係各位

2014年7月1日

ブルサとジュマルクズック、およびイズミルのベルガマが ユネスコ世界遺産リストに

カタールの首都ドーハにあるナショナル・ kongress・センターにて、第38回世界遺産委員会が行われ、トルコからはオスマン帝国発祥の地「ブルサとジュマルクズック」およびイズミルの「ベルガモン（ベルガマ）とその重層的な文化的景観」がユネスコ世界遺産リストに登録されました。

1972年に締結され、現在は191の締約国を持つ「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」。これまでトルコからは、イスタンブール歴史地区、大モスクとディヴリーイの病院、ヒッタイト帝国の都ハットウシャ、ネムルト・ダウ、クサントス・レトーン、トロイの考古遺跡、ギョレメ国立公園およびカッパドキアの奇岩群、パムッカレのヒエラポリス、サフランボル市街、セリミア・モスクとその社会的複合施設群、チャタルヒュユクの新石器時代遺跡が登録されていました。これに、オスマン帝国発祥の地「ブルサとジュマルクズック」および「ベルガモン（ベルガマ）とその重層的な文化的景観」が加わり、これまで11だったトルコの世界遺産が13を数えることとなりました。

オスマン帝国最初の首都で、帝国の基盤となる歴史的建造物が多く残るブルサは、当時の産業と自然美を顕著に物語っています。そして700年の歴史を持つジュマルクズックの街からは、今日も、当時の住宅の様子がうかがえます。商業文化、および農村生活のコミュニティが残るブルサとジュマルクズックは、オスマン帝国の生活の様子を表す良い例となっています。

もう一つ、文化遺産として登録されたのが、イズミルのベルガマです。ベルガマは長い歴史において、文化的な遺産や豊かさで注目されており、かつてはベルガモンとして知られていました。ヘレニズム時代には、文化と芸術のもっとも重要な中心地のひとつとして考えられていました。ヘレニズム時代のもっとも大きな図書館が立つなど、その文化的景観が注目され、世界遺産リストに登録されました。ヘレニズム時代、ローマ時代、東ローマ時代、そしてオスマン帝国時代と時を重ね、ベルガマはアクロポリス、7つの古墳そしてキベレ聖地を含む9つの要素で成り立っています。

トルコは歴史的にも文化的にも、豊かで独特の可能性を持っており、ユネスコの世界遺産暫定リストには、文化部門で49、文化と自然の融合部門で2つ、そして自然部門で1つの、合計52の文化遺産が登録されています。



報道関係者の皆様からのお問合せ先

トルコ共和国大使館・文化広報参事官室広報代理店
株式会社マイルポスト 担当：松本、斉藤（麻帆）
TEL: 03-5275-2461 / FAX: 03-5275-2467
Email: turkey_pr@milepost.co.jp